

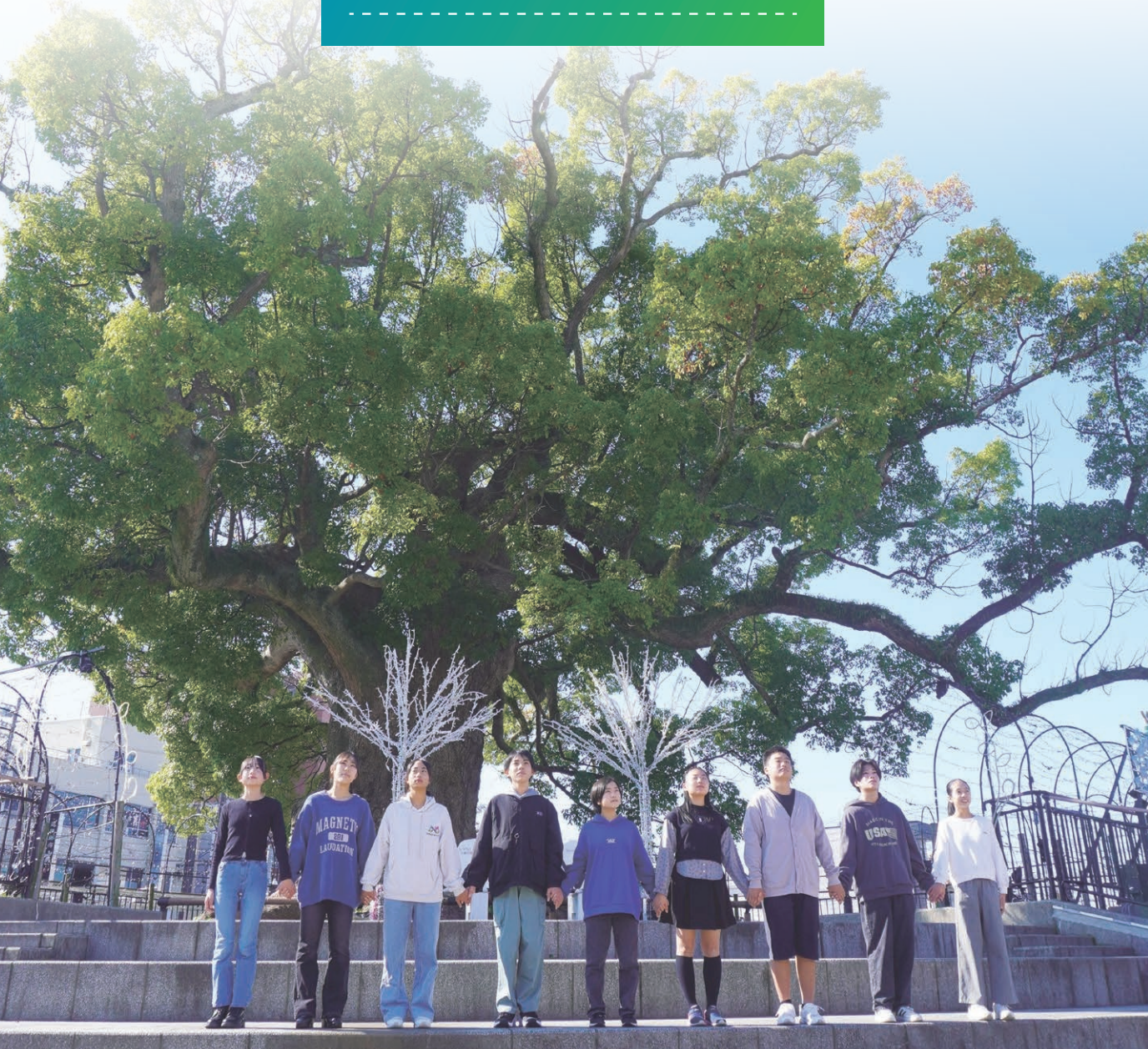
いわ たち へい わ けい はつ
磐田市平和啓発ブック

せん ご
戦後80年

み らい
未来につなぐ

へい わ ちか
平和の誓いと

え がお
みんなの笑顔



平和の想いを次の世代へ

あなたにとって「平和」とは何ですか。

私たちが「平和」と聞いて思い浮かべるのは、争いのない穏やかな日常や、家族とともに過ごす安らぎの時間かもしれません。誰もが恐怖や不安を感じることなく、互いを尊重しながら生きていける社会——それこそが、私たちが目指す「平和」の姿です。

しかし、現代では、今なお世界各国で戦争や紛争が絶えず、多くの命が奪われ、暮らしが壊されています。遠い国の出来事のように感じられるかもしれませんが、かつてこの磐田市でも、戦争という悲しい歴史が確かに存在していました。戦地に動員され亡くなられた方や空襲で犠牲になった方もおり、罪のない子どもたちを含むたくさんの尊い命が奪われ、多くの市民がその苦しみを体験しました。

人の痛みを理解し、戦争の被害者にも加害者にもならないこと、そして事実を学び、過去を忘れることなく次の世代へと語り継いでいくことが、今を生きる私たちの責務です。

この冊子を通じて、「平和とは何か」を改めて考え、私たち一人ひとりにできることは何かを見つめ直していただければ幸いです。そして、平和な社会の実現に向け、行動するきっかけとなることを、心より願っています。

磐田市総務課

目次

磐田市の戦争の歴史	1
磐田市の戦争遺跡	4
磐田市と緑十字機のつながり	6
平和への取り組み	7
広島平和記念式典派遣事業	8
被爆桜について	9
平和のために考えよう	9

※掲載した写真、図のうち、出所を明示したもの以外の著作権は、すべて磐田市に帰属します。

磐田市の戦争の歴史



ぼうくうえんしゆつ ようす
防空演習の様子

戦争の始まり

1931 (昭和6) 年9月、日本軍が満州事変を起こし、戦争の時代が始まります。

1937 (昭和12) 年には日中戦争が始まり、戦争が長期化するにつれて国家総動員の体制がとられ、国民は戦争遂行のため耐久生活を強いられることとなります。1945 (昭和20) 年8月に戦争が終結するまでの期間を「15年戦争」とも言い、戦争が人々の生活に大きな影響を与えました。

戦争中の人々の暮らし

配給制度

戦争によって物が不足してくると、生活に必要な物資が配給制になりました。米・塩・みそ・しょうゆなどの食料品はもちろん、衣料品も「切符」がなければ買うことができず、欲しいものが自由に買えなくなりました。



はいきゆう
配給された衣料切符

空襲と人々の生活

戦争が激しくなると、アメリカ軍の飛行機が爆弾を投下するようになり、磐田も大きな被害がありました。空襲に備えるために地域ごとに防空演習を行い、各家庭では、水入りのバケツと火たたき※・砂袋が用意されました。

※火たたき：縄に水をつけて火をたたき消す道具

各地で、国防婦人会が結成され、見付では「大日本国防婦人会見付支部」ができました。出征兵士の見送りや慰問袋の作成など、戦時活動を支えました。

また、東京が空襲で被害に遭う前に、磐田にも大勢の児童が集団疎開をしてきました。



だいにほんこくぼうふ じんかいみつけし ぶ せんしやうみつけがっこうかいだんま
大日本国防婦人会見付支部(旧見付学校階段前)



いおうじ そかい かまたこくみんがっこう じどう
医王寺へ疎開した蒲田国民学校の児童たち

戦争体験者からの証言

東京から母の実家がある鮫島に疎開してきました。戦時中は毎日アメリカの戦闘機が飛んでいましたが、母の実家は農業と漁業で生計を立てていたため、従兄は危険を冒して漁を続けていました。終戦直前は、人手不足で小学生も漁の手伝いをしていました。漁を終えた船が沖から戻るとき、船が機銃掃射※を受け、陸で地引網をしていた女性と子どもにも銃撃が及びました。私を含め、陸にいた人々や船から海に飛び込んだ従兄たちは助かりましたが、友だちは跳弾でけがをし、船上で身を伏せた人は3人亡くなりました。

※機銃掃射：戦闘機が機関銃の銃口を動かし、敵をなぎ倒すように射撃すること。
牧野 正國さん(88歳)



みくりやこうとうしょうがっこう ぐん し くんれん よう す
御厨高等小学校での軍事訓練の様子

戦争と子どもたち

戦争が始まると、学校の教育は戦時体制のもと、戦時対応教育に変わっていきます。

小学校では、兵士の送迎、農繁期の労力奉仕、物資の節約、鍛錬行事の強化などが行われ、1941 (昭和16) 年から新たに国民学校制度が始まると、これらがさらに強まってきました。

中学校 (現在の高等学校に相当) では、昭和初期から将校※が配属され、授業に軍事訓練を取りいれていきました。戦局が厳しくなる1944 (昭和19) 年には、学徒動員が本格化し、生徒は、軍需工場での兵器の製造や、軍事施設での作業などを行い、戦争遂行のための戦力となっていました。

※将校：軍隊における指揮官の階級をもつ軍人

戦争体験者の証言

私が6歳の頃、小学校の校庭は食料増産のために、かぼちゃやさつまいもの畑となり、授業では教育勅語を教育理念に取り入れ、少年兵に行く準備をしていました。見付国民学校の教師と児童の29名が犠牲となった空襲の時、わたしも同じ場所にいました。側溝に隠れてなんとかぎりぎりのところで助かりましたが、恐々空を見上げると、電線に衣類がぶら下がり、どこへ飛ばされたか分からない友だちもいました。とても怖かったことを今でも覚えています。

おぎき ましひで さい
尾崎 宜秀さん (90歳)



陸軍特別攻撃隊

陸軍特別攻撃隊 (特攻隊) とは、戦争末期に航空機に爆弾を積んで艦船に体当たりを行った飛行部隊のことです。陸軍の特攻隊として最初に出撃した「富嶽隊」には、旧掛塚町出身の米津芳太郎大尉が所属しており、突入の瞬間を伝える通信担当として隊長機に同乗していました。



よね ぶよし たらうりくぐんたい
米津芳太郎陸軍大尉

遺族の証言

わたしの叔父は、陸軍特別攻撃隊員として出撃し、1944年11月フィリピン海域で戦死しました。この特攻作戦は、機体から銃器が外され、爆弾は落とせない構造に改造されて、搭乗者もろとも敵の戦艦へ体当たりをさせるといふ非人道的なものでした。叔父はたった26歳で悲壮な最期を遂げました。私が今を生きている若者の皆さんへ伝えたいこと、それはたった一度だけの人生を大切に生きてほしいということです。そして、誰もが一人の人間として尊重され、幸福を感じられる社会を実現することこそが平和への近道であると信じています。

しみん へいわ ちやうばん じやうぎん かい
市民の平和展磐田実行委員会 米津 幸男さん (77歳)

いわたし ぐうしゅう ひ がい 磐田市の空襲被害

1944 (昭和19) 年11月から、マリアナ諸島のサイパン基地を飛び立ったB29爆撃機による日本本土への空襲が始まります。昭和19年から昭和20年にかけて、死者224人、負傷者82人と多くの被害を受けました。(市文化財課資料より引用)

1945 (昭和20) 年5月19日の出来事

1945 (昭和20) 年5月19日、約90機のB29爆撃機が関東・東海領域に侵入しました。密雲により、攻撃目標である飛行場及び軍需工場を発見できず、各地に散発的に投弾したため、磐田でも下記の地区などで大きな被害を受けました。

見付地区

空襲警報が発令されたため、見付国民学校の児童は学校から退避し、河原町方面へ帰宅しました。途中、男子児童50名が防空壕へ避難しようとしたが、女子児童でいっぱいであったため、外の側溝にうずくまっていたところに、飛来したB29爆撃機が投下した爆弾が直撃し、爆風などにより教師1名(田中小苗先生)と児童28名が犠牲となりました。



田中 小苗先生(当時18歳)

中泉地区

中泉農学校(現磐田農業高校)ではこの日、桑畑で生徒が実習中でした。遠くにB29爆撃機が見え、丸山茶園付近の防空壕に避難しましたが、防空壕の手前5mのところで爆弾が炸裂し、生徒のうち5人が犠牲になりました。

また、磐田工業高校(現磐田西高校)の生徒5人が、学校から掛塚町の自宅へ自転車で帰宅途中に田中神社付近で空襲被害に遭い、3人が犠牲になりました。お弁当を食べながら休憩していたときのことでした。

福田地区

福田町では、アメリカ軍の空襲により、30世帯が全焼、41人が犠牲となりました。当時、空襲を経験した方の話によると、救護所となっていた小学校では、教室にも廊下にも足の踏み場もないほどけが人の山ができていて、泣き叫ぶ声やうめき声が響き渡っており、生き地獄そのものだったそうです。

豊岡地区

1945 (昭和20) 年、標的となる軍事工場や民家の少なかった豊岡地区にも空襲警報が発令されるようになりました。このころ、海軍の一部の兵士52名が、豊岡地区の敷地村国民学校(現豊岡北小学校)を宿舎として駐留しました。

遺族の証言

父は豊川海軍工廠※の職員でした。B29の爆撃で右足を負傷し、近くの小学校で手当てを受けました。教室は負傷者であふれ、薬も少なく、母は後で“地獄のようだった”と語りました。傷は癒えず、父は26歳で亡くなりました。私は母のお腹の中にいたため、仏壇の上に掲げた父の写真しか知ることができません。夢でもいいから父に会いたい。戦後80年過ぎてても未だかないません。

※工廠：軍隊直属の軍需工場のこと



磐田市遺族会 伊井谷 晴夫さん(79歳)

磐田市の戦争遺跡

① 慰霊碑 (磐田北小学校付近)

見付国民学校の教師1名と児童28名が犠牲となった空襲の翌年、慰霊碑と「子ども厄除け地蔵」が建立され、以来毎年、磐田北小学校PTAによって慰霊祭が行われています。この碑には、子どもたちが生命と平和の尊さを後世に語り継いでいけるようにとの強い願いが込められています。なお、磐田北小学校では、毎年5月に平和月間を設け、平和集会などを開き、子どもたちが平和を語り継いでいます。



⑤ 戦火をくぐり抜けたクスの木

⑥ 第一航空情報連隊跡



② 慰霊碑 (磐田農業高校)

戦争の犠牲者となった中泉農学校(現磐田農業高校)の5人の生徒を慰霊すると共に平和を願うため、当時の同級生が中心となって基金を募り、磐田農業高校開校100周年を迎えた1996(平成8)年5月19日に「平和の願い」の碑が建立されました。



③ 明野陸軍飛行学校天竜分教所跡 (竜洋袖浦公園)

天竜分教所は、1942(昭和17)年4月に開設され、1945(昭和20)年6月までに、400名を超える将校を養成しました。天竜分教所からは明野本校(三重県)で編成された特攻隊「八紘隊」などに参加し、多くはフィリピン島上空で戦死しています。また、天竜分教所から飛び立った特攻隊員数名が沖縄上空で戦死しています。敗戦後、アメリカ軍に利用されることを恐れ、飛行場の格納庫などは撤去されたため、現在は、当時の格納庫の基礎の部分であるコンクリートの柱のみが残っています。



④ 開拓団礎霊之碑 (観音寺)

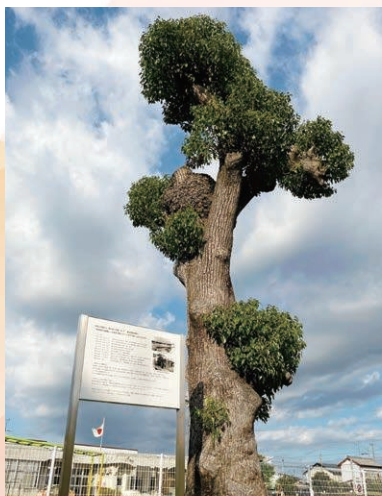
満蒙開拓団※福田郷は、龍山開拓団ともいわれました。福田町から多くの人々が、第2の福田町建設の夢を描いて、満州の「龍山」へと渡っていきました。しかし、1945（昭和20）年8月の日本の敗戦により、参戦したソビエト軍や中国人から襲撃される危険を避けるため、悲惨な逃避行を余儀なくされ、食料難や銃撃戦により、多くの犠牲者を出しました。

※満蒙開拓団：満州事変後、日本政府の国策により、満蒙（満州及び内蒙古）地区に移り住んだ日本人農業移民



⑤ 戦火をくぐり抜けたクスの木 (豊田西保育園)

1945（昭和20）年5月19日、海老塚、豊田西の島、小立野、池田、源平新田に200発以上の爆弾が投下され、住民・家屋が大きな被害を受けました。現在、豊田西保育園がある場所には、当時、池田村国民学校がありました。空襲で、学校は一部を残して跡形もなくなりましたが、唯一クスの木だけが生き残りました。今でもずっとこの地で子どもたちを見守り続けています。



⑥ 第一航空情報連隊跡 (かぶと塚公園)

第2次世界大戦が始まり、日本帝国陸軍航空部隊は国土防空の目的をもって1942（昭和17）年に磐田原台地に第一航空情報連隊を開隊しました（通称中部129部隊）。日本で最初の電波警戒機部隊※として多数の将兵を育成し、太平洋戦争全戦域に出動し多くの功績を残しましたが、その多くは再びここ磐田の地に帰りませんでした。かぶと塚公園には、この他にも、レーダー塔の基礎や軍事基地の境が残っています。

※電波警戒機部隊：無線を使って敵の動きを警戒する部隊



歴史資料を探してみよう

写真パネルや古文書、貴重な実物資料などを所蔵・展示しています。無料で入館することができます。

① 埋蔵文化財センター

所在地：磐田市見付3678-1
利用時間：午前8時30分から午後5時
休館日：祝日、年末年始

② 歴史文書館

所在地：磐田市岡729-1
利用時間：午前9時から午後5時
休館日：土曜・日曜・祝日・年末年始

③ 竜洋郷土資料館

所在地：磐田市岡405-47
利用時間：午前9時から午後4時30分
休館日：月曜、祝日、年末年始

磐田市と緑十字機のつながり

ポツダム宣言の受諾

1945（昭和20）年8月15日、玉音放送※で日本はポツダム宣言※を受諾し、無条件降伏することを表明しました。

しかし、正式な終戦でない中、旧ソ連軍は樺太※の日ソ国境を突破し南下を進めていたため、日本は終戦処理について連合国側と具体的な手続きをし、早急に降伏文書へ調印する必要がありました。

軍使たちを運ぶ緑十字機

日本は降伏文書調印のため、フィリピンのマニラへ軍使※一行を派遣しました。この軍使を千葉県の木更津から中継地である沖縄県の伊江島へ運んだのが、白地に緑の十字が描かれた2機の「緑十字機」です。

軍使一行を乗せた緑十字機は、8月19日、木更津を出発し伊江島に到着。米軍機に乗り換えてマニラへ行き、会議を行いました。8月20日に伊江島に戻り、再度木更津へ向けて出発する間際、1機の緑十字機が故障してしまいます。緑十字機は残りの1機で軍使の半数を乗せ、先行して木更津へ向かうこととなりました。

鮫島海岸に不時着

8月20日深夜、軍使を乗せた緑十字機は燃料切れのため鮫島海岸に不時着しました。この時、不時着の現場を見かけた鮫島地域の住民たちは、すぐに救援に当たりました。この救援により、軍使たちは、現在の竜洋袖浦公園にあった飛行学校のトラックで代替飛行機のある浜松飛行場（現航空自衛隊浜松基地）へ速やかに移動することができました。

浜松飛行場の飛行機は、富山県へ避難させてありましたが、1機だけ残されていました。この飛行機を修理し、浜松飛行場を離陸した軍使たちは、8月21日朝、連合国から受け取った降伏文書などの重要な書類を政府に届けることができました。

戦争の終わり

9月2日、東京湾の戦艦ミズーリ号で連合国の代表が降伏文書に調印し、正式に戦争が終わりました。旧ソ連軍は北海道の直前まで迫っていましたが、この調印により攻撃を停止しました。緑十字機の決死の飛行、そして伊江島補助飛行場への離着陸と鮫島住民の関わりにより、太平洋戦争を終戦に導いたと伝えられています。

※玉音放送：昭和天皇が自らラジオを通じて国民に太平洋戦争の終結を告げた録音放送

※ポツダム宣言：連合国による日本への無条件降伏を勧告するための宣言

※樺太：北海道の北に位置する細長い島（ロシアではサハリンと呼ばれている）

※軍使：交戦中の軍隊間で交渉のために派遣される使者



離陸し木更津へ向かう緑十字機（岡部英一さん提供）

こうふくぶんしよ がいむしょうがいこうしりょうかんしよぞう
降伏文書（外務省外交史料館所蔵）



にほん わじょうけんこうふく う せいしき
日本が無条件降伏を受けることを正式に
せんげん すべ せんそうこうい ていし にほん れんどう
宣言し、全ての戦争行為の停止や日本が連合
こくぐんさうしうし れいかん めいれい したが めいき
国軍最高司令官の命令に従うことが明記さ
れています

平和への取り組み



都市宣言

2009（平成21）年4月1日に世界平和の
実現を強く希求して「核兵器廃絶平和都市宣言」
を制定し、同年9月に平和首長会議に加盟し
ました。平和事業を通して、市民の皆さんに
戦争や核兵器の恐ろしさ、平和の尊さを訴え
続けています。

磐田市平和祈念式

磐田市における戦没者・戦災死者を追悼し、
平和を希求する想いを次世代に継承していく
ため、毎年8月15日に開催しています。



広島・長崎被爆写真パネル展

広島・長崎の被爆の実態を多くの市民や
子どもたちに知っていただき、戦争の恐ろしさ
や平和の尊さについて考えるきっかけとして
もらうため、市内施設及び市内中学校を巡回
するパネル展を毎年開催しています。

戦後80年磐田市 平和標語コンテスト

平和への想いを次世代に継承するため、
平和に関する標語を募集したところ、490点
もの多数の作品の応募がありました。

最優秀賞

未来につなぐ 平和の誓いと みんなの笑顔
戦争を経験した方々の記憶や思いを語り継ぎ、平和の大切さを
字んでいくことで、家族や友達の笑顔と何気ない日常が未来永劫
続くようにと願いを込めました。

はままつにたいちゅう ねん き せ あや の
浜松日体中2年 木瀬 綾乃

優秀賞

未来く 平和の花を 咲かせよう

すず き かつよし
鈴木 克佳

愛する子らへ 笑顔で渡そう 平和のバトン

ふかざわ ま ゆ み
深澤 真由美

あらそわないで 助け合おう 平和は人が作るもの

いわきたたしやう ねん てらだ はる き
磐田北小4年 寺田 悠希

そのほかの入賞作品は、
市ホームページに掲載
しています。



本でつなぐ平和のバトン

市内図書館には、戦争と平和について考える
きっかけになる本がたくさんあります。
二度と戦争をしないために、戦争の記憶を
絶やさないために、ぜひご一読いただき平和
について一緒に考えましょう。



ひろしまへいわねんしきてん 広島平和記念式典

はけんじぎょう 派遣事業 (平成22年度～)



まいとし かいさい ひろしま し げん ぼく し ぼつ しゃ い れい しき なら
毎年8月6日に開催される広島市原爆死没者慰霊式並びに
へい わ き ねんしき い か へい わ き ねんしきてん し ない がくせい は けん
平和祈念式 (以下、平和記念式典) に市内の学生を派遣しています。

じぎょう とお みらい にな こ げん ぼく どう か
この事業を通して、未来を担う子どもたちに、原爆が投下された
ち しきてん さん れつ せん そう ひ さん へい わ たい せつ
地で式典に参列することにより、戦争の悲惨さや平和の大切さを
かん みずか なに かんが へい わ おも じ せだい
感じてもらい、自ら何ができるかを考え、平和への思いを次世代へ
けいしやう き かい かんが は けん じぎょう
継承していく機会としてもらいたいと考えています。この派遣事業
では、平和記念式典の参列に加えて平和記念公園や原爆資料館、
やす だ じょ しちゆうがくこうとう がっこう おとす は けん ご こ
安田女子中学高等学校を訪れ、派遣後には、子どもたちが「目で
み みみ き て ふ まな かん がっ こう かい
見て」「耳で聞いて」「手で触れて」学び感じたことを、学校や家庭、
ち いき ほうこく へい わ わ ひろ
地域へ報告し、平和の輪を広げています。



ひろしま は けん き ろく
広島派遣記録は、
市ホームページで
かくにん
ご確認いただけます。



さん か しゃ 参加者からのメッセージ

いま わたし に ほん へい わ あ まえ
今までの私は、「日本は平和」と当たり前のように
おも ひろしま へい わ がくしやう お いま
思っていました。しかし、広島平和学習を終えた今、
『へい わ』が いかに たいせつ な もの で、 未来に ひきつ
『平和』が いかに 大切なもので、未来に引き継いで
いかなければならないと強く感じています。戦争の
ことについて学び、そのことから
へい わ ふか かんが おお ひと
平和について深く考え、多くの人に
へい わ たいせつ つた
平和の大切さを伝えていきたい
です。

ながのしょうがっこう うめむら のぞみ
長野小学校 梅村 希望さん
はけんだん
(令和7年度派遣団)



ぼく あ まえ しあわ
僕たちがいつも当たり前になっていることはとても幸せ
なこと き せん そう し せだい せん そう
な事だと気づきました。戦争を知らない世代に戦争の
おそろしさを伝えること、そして、もう二度と戦争を起
こさせないことが僕たちの使命だと思います。平和の
実現に向け、これからの未来
を背負っていく僕たちにできる
こと さい だい げん
を最大限やっていきたいと
おも
思います。

しんめいちゅうがっこう どうじ ながい はると
神明中学校(当時) 永井 陽大さん
はけんだん
(令和6年度派遣団)



被爆桜について

磐田市の被爆桜は、広島派遣事業を通して交流のある広島市の安田女子中学高等学校の校庭にある被爆した桜の木から、接ぎ木という方法で作った苗木をいただき平成22年及び平成26年に植樹したものです。長い間、たくさんの悲劇と広島復興を見続けてきた安田女子中学高等学校の被爆桜は、今も春になると美しい花を咲かせています。ソメイヨシノの寿命は60年から80年といわれ、当時あった桜の木はほとんど枯れてしまったため、現在も残る桜の木は、たいへん貴重なものです。

市内に植樹した被爆桜は、現在4箇所です。毎春美しい花を咲かせています。安田女子中学高等学校の生徒の「一人でも多くの人がこの桜の美しさに触れ、生きることの喜びを感じてほしい、さらに平和に対する夢と希望を発信したい」という思いや平和の大切さについて考えながらご覧ください。



かぶと塚公園内の被爆桜

市内で被爆桜を見られる場所 (令和7年4月時点)

- かぶと塚公園
- 向陽中学校
- 磐田南小学校
- 豊田中学校

平和のために考えよう

あなたが考える平和とは？

平和な世界の実現に必要なこと

いま私たちができること

ふるさといわた

作詞：河島 俊明

作曲：山下 康介

- 1 海に 抱かれて
森に 見守られ
古に 思いをはせる このふるさと
今 未来をみつめ 輝く いわた
- 2 川に 育まれ
台地に 支えられ
悠久の 時を刻む このふるさと
今 未来を信じ 伸び行く いわた
- 3 空に 包まれて
花に 彩られ
永久の 明日を語る このふるさと
今 未来を拓き 羽ばたく いわた

かくへい き はいぜつへい わ と し せん げん 核兵器廃絶平和都市宣言

世界の恒久平和は、人類共通の願いです。

しかしながら、今も核兵器の拡散が懸念されており、世界各地で繰り返される紛争では現在も尊い命が失われ、多くの人々が傷ついています。

わが国は、世界で唯一の被爆国として、広島と長崎の惨禍を二度と繰り返してはならないと全世界に訴え続けています。磐田市は、美しい自然と多くの文化遺産を未来へと受け継ぎ、全世界の人々が戦争のない平和な日々を送っていくためにも、すべての核保有国に対し核兵器の廃絶を訴え、かつ、わが国の非核三原則が完全に順守され、原子力が平和的に利用されること及び世界平和の実現を強く希求し、ここに「核兵器廃絶平和都市」を宣言します。

平成21年4月1日 磐田市